

平成21年度 大学院学位記授与式 祝辞

ロバート・ファン

米国シネックス社 代表取締役会長

(昭和43年 工学部卒)

有川総長、諸先生方、ご家族の皆様、来賓の皆様、そして今年大学院を修了された卒業生の皆さん。

今日ここで皆様に祝辞を述べる機会を与えていただいたことを大変光栄に思います。九大のよう素晴らしい大学から修士や博士を取得されたことを心よりお喜び申し上げます。数ヶ月前、総長より正式の招待状を頂いてから、何を話すべきかを機会があるたびに考え続けて参りました。

最初は英語で話せばと言われましたが、十数分しかないのに通訳で半分の時間を取られたり、意味が良く理解されない可能性もあるので、私のパーフェクトではない日本語でお話しした方良いと思いました。その方がかえって皆様に私の気持ちと考えがよく伝わると思います。

私は1968年卒業ですので、42年前にここに座って卒業式を祝ったはずですが、しかし、恥ずかしいことですが、その時のことは一切覚えていません。誰が何を話したかも全く記憶に残っていません。

今日の話のことは、数年後には皆様にとっても同じようになるかもしれませんが、総長からいただいたこの貴重な時間を大事にしたいと思います。出席者3,000人にこの十数分をかけると、1,000時間近くなります。お金に換算すると結構な金額です。だから皆さんの中の5%でも10%でも私の言うことを分かってくれる人がいて、人生の力になれば、私としても非常に嬉しく思います。

九州大学は非常に立派な大学です。エリートしか入学できませんが、だからと言って誰でも卒業できるとは限りません。75年前、私の父が数単位足らずで卒業できなくなり、一生それで苦労しました。

この旧帝大を見事に修了したエリートの皆さんにもう一度心からおめでとうと申し上げます。大変御苦労様でした。先生方も御両親の皆さまも本当におめでとうございます。

皆さまもご存じのように卒業式は英語で“Commencement（開始）”と言います。それはまさに学校の勉強が一段落して、新たな人生が“始まる”ということを意味しているのです。

今日伺ったところによると、ここにおられる70%近くの方は会社や役所に入り、15%の方が研究や教育を続ける、そして残りはどうするかをまだ決めていないということです。皆さんはこれから未知の世界に入ることで興奮と不安で胸がいっぱいのことと思います。

一歩下がって今の日本を見ると、バブルがはじけてから二十年、日本の経済は成長の沈滞した状態が続き、そして同時に、周りの国々からいろんな分野でどんどん追われているのが現状です。70年代、80年代の日本は技術・品質管理だけではなくて、経営管理の面でさえ世界をリードし

ていました。ところが、この世紀に入ってから、日本のことはあまり話題にならなくなりました。その上に皮肉なことです、ここ最近アメリカのマスコミが騒いでいるのはトヨタ自動車のリコールだけです。豊田社長のアメリカ議会公聴会での答弁は全米にテレビで中継放送されましたが、これは面目のある話ではありません。

日本にもう一度世界の舞台で活躍して欲しいと思っているのは九大卒の日本人だけではないし、私一人だけでもありません。今日ご参加の皆様はもちろん、日本の全ての国民、そして日本を愛してきた多くの外国人も心から期待しています。

日本が、この **Leadership** を取り戻せるのは自民党でもないし、民主党でもありません。グラスルーツの日本国民でなければなりません。

日本は美しい、豊かな国です。すばらしい **World class** の科学者、芸術家、技術者、そして経営者もたくさんいます。しかし、もっともっと多くのリーダーが必要です。エリートだけでは不十分です。

それでは、リーダーとは何でしょう。私が考えているリーダーというのは、自分の知識をベースにしてよりよい社会に貢献することが出来る人がリーダーです。組織を指揮して効率よく経済効果を生み出すのは典型的なリーダーですが、個人としても、科学者であろうが、先生であろうが、ジャーナリスト、芸術家、アスリート、政治家であろうが、色々な分野で自分の知識で未知の世界を発見し、新記録に挑戦しながら社会に貢献できるのは立派なリーダーです。エリートは必ずしも社会に貢献しなくてもいいかもしれませんが、リーダーは必ず自分の **Output** は社会にインパクトを与えるくらいの気持ちでいてもらいたいと思います。

リーダーになるのは、そんなに分かりにくいことはありません。エリートの皆さんには当然分かることです。

まず自分の分野で優れることです。本当に自分のやっていることをよく理解することです。物事の認識が深まるとインテレクチュアルに満足感が出て、より深く突っ込みたくなり、新しい発見や理解がいつの間にか出てくるものです。

人間は暗い所にいると見えないから怖いのです。人生も同じです。物事がわかると決定しやすくなります。勇気がどんどん出てきて、新しいことにチャレンジし、新発見、新製品、新記録が次から次に出てくるものです。

我々は忍耐力があり、我慢強い東洋人です。石の上にも三年といいますが、意思力で何かを必ず仕上げる職人気質（かたぎ）を誇りにしています。失敗は必ずあります。しかし、倒れてもまた起き上がり、諦めないだけではなくて、もっと高い目標を設定して頑張る人こそがリーダーなのです。

大学のアイスホッケー部のトレーニングの時、腕立て伏せや腹筋の運動でも、だんだん回数を増やしていき、歯を食いしばって最後の一回まで頑張ったことは今でも頭の中に残っています。いつの間にか腕立て伏せを 100 回まで伸ばした経験があります。

私は、大学の成績は平均ぐらいだったのです。しかし、運もあることですが、多くはクラブで

鍛えられた体力と根性で、今の会社をゼロからスタートし、ここ 30 年で 8000 億円の売上高まで築き上げました。

経営や研究などは、当然トレーニングと違って、忍耐力だけではできません。先ほども言いましたように、失敗は必ずあります。私はその度に家に帰って本を読みました。関係のない本かもしれませんが、何か新しいことをその本から習得することによって、エネルギーの再チャージ ができて、翌日会社に出て次のことをやることができるようになりました。

リーダーになるもう一つの要件は、人格というものです。人間は社会の動物である以上、常に他人と接触が必要です。他人の立場で物事を考え、自分の日々の生活は言行一致で行い、自分は常に自分の信ずる価値観に基づいて行動すれば、周りの人に信頼されやすくなります。環境が変われば、価値観を修正することも必要です。ただし、これをするには勇気と知恵が必要です。

ここでもう一度今までの話をまとめますと、常識のようですが、リーダーになる四つの特性は、第一に知識をあくなく追求すること、第二に常に高い目標を設定し行動に移すこと、第三に失敗しても立ち直る勇気と根性を持つこと、そして第四に言行一致と人の立場で物事を考えることです。

皆さん、私の今日の話を、帰って自分の日記のどこかに書き留めてください。一年、三年、五年先の目標を暫定的に立ててすぐに行動に移してください。これから何をするかが決まっていない方は、どこかでボランティアをやってください。日本でもいいし、外国でもいいのです。それをやれば新しい経験が出来て、いろんな新しい機会が生まれるでしょう。

留学生の方々も本会場にたくさんおられますが、もし帰国されれば、祖国で活躍し、将来祖国と日本の親善、そして世界のために貢献してください。

皆さん、かなり元気を失ってきた今の日本を立て直すためには、エリートの皆さんにリーダーになって貰わなければいけないのです。老化していく日本の将来の重荷も皆さんに背負ってもらわなければなりません。リーダーの **Innovation** でいろんな困難を克服して、よりすばらしい日本を造ってください。

最後にもう一つ私の経験を皆様と分かち合いたいと思います。確かに私の人生はあんまり悔いのないことをやってきました。しかし、もしやり直すことができるならば、やりたい事が一つだけあります。私は 30 年の浦島太郎になって会社と仕事だけで生きてきました。そのために、一番身近な家族や友人をおろそかにしてきました。もう少し彼らと時間を過ごせば良かったと思うのが今の心境です。幸せというものは、リーダーになって社会に貢献すればいいだけではなくて、健康と家族・友人との関係もなければなりません。幸いなことですが、今日は私のクラスメイト、アイスホッケー部の後輩、アメリカから私の **Wife**、北京の息子と友達、そして台湾から姉にも来てもらい、非常に嬉しく思います。

大変長い話で、しかも私のさびついた日本語で聞いていただいてありがとうございました。

もう一度、皆さんの成功と幸せ、そして日本の将来の発展を心から祈ります。皆さん、頑張ってください。